



## 千里中央病院

### —新型コロナウイルス 感染対策 について—

2020年のはじめに国内で確認された新型コロナウイルス感染症によって、病院は未だかつてない感染対策の強化が求められました。当院も例外ではなく、未知のウイルスに対してどのように対応するのが正解なのか、わからないことだらけという状況でしたが「患者さんを感染から守る」という使命のもと、職員一丸となって感染対策を行ってきました。

当院の感染対策委員会は、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、作業療法士、栄養士、事務職員など多職種で構成されています。コロナ禍では通常業務を維持しながらの感染対策となるため、委員会が中心となって、玄関でのトリアージ、使用物品の選定、アイシールド、ガウン、グローブなど必要物品のリサーチと確保、入院患者さんや職員の発熱時の対応、個室隔離、スタッフ教育など目まぐるしく対応してきました。そうした地道な活動と各現場での徹底した感染対策の実践があり、今日まで院内感染は発生していません。

現在も面会や外出泊の制限など患者さんやそのご家族にも多大なご協力をお願いしています。ご不便をおかけしておりますが、感染対策委員会は、新型コロナウイルスはいつ目の前にいてもおかしくないというスタンスのもと、いかに影響を小さく抑えるかを考え対策を講じています。

今後も患者さんとスタッフの安心・安全を守るために、従来の標準予防策や経路別予防策を日々の業務で徹底できるように、継続可能な感染対策を考え指導、実践して参ります。



#### ■ 病院概要

診療科 / 内科、神経内科、外科、整形外科、  
脳神経外科、リハビリテーション科  
病床数 / 400床

- 一般障害者病棟：275床
- 回復期リハビリテーション病棟：100床
- 緩和ケア病棟：25床



玄関では、ご来院の皆様にご協力をお願いしております。ご来院時に正面玄関のサーモカメラにて検温します。



定期的に換気および手の触れる場所の清拭消毒など、日々、安心・安全を守るための、丁寧な消毒作業を行っています。



患者さんと職員の安全のために、医療処置や、治療上必要な場合はエプロン・ガウン・ゴーグル等を使用します。



院内での感染を防ぐために、医療従事者自身を感染症から保護する个人防护具に対する訓練を全職員に実施しました。



感染対策を十分にした上での面会を行っています。その他、オンライン面会も行っています。



日々、全職員の検温と体調管理を行っています。また、職員を対象としたコロナワクチン予防接種を行いました。



## 看護部

### 看護部認定プロジェクト オムツフッター認定制度 について



看護部では、2011年度よりオムツ使用のプロフェッショナルを目指し、毎年オムツフッターの講習会を行っています。目的は、患者様に合ったオムツを選択し、尿や便が漏れることを予防し快適な入院生活を送れるようにすることです。そして、排泄に関す



る知識・技術を学び、効果的な排泄援助ができることを目指しています。

オムツはたくさんの種類があります。オムツは下着なので、合っていないと不快感があります。患者様に合ったオムツをオムツフッター認定者が中心になり話し合いを行い、選んでいます。高齢者の方の排泄のメカニズムを学び、オムツ交換の時間帯や回数を考え、個別性を重視した排泄ケアを行っています。

当院の看護・介護職は多数このオムツフッター認定研修を受けています。日々、患者様に合ったオムツを使用し、質の高いケアで入院生活をサポートします。

※当院のオムツフッターとは『筆記試験と実技試験に合格し、対象者に合うオムツ選定、排泄ケアを行う看護・介護職』を言います。



## 栄養科

栄養科は、管理栄養士が5名、事務員1名が在籍しています。



### 給食業務

治療食として毎食提供されるお食事は、委託給食会社が担っており、協同し、毎月の行事食や、季節を感じられる食材を使って患者様に、安心・安全、そして何より美味しいと思って食べていただけるお食事を心がけています。

また、当院は、ニュークックチルシステムによる再加熱カートを使用した方法を導入しており、温かいお料理は温かいままで、冷たいお料理は冷たいままでお食事が提供できるようになっています。

### 病棟栄養業務

病棟ごとに担当管理栄養士を配置し、入院時には、アレルギーの有無や、摂食嚥下障害に関する情報を収集し、患者様に適した食事を提案します。

食事時には病棟へ出向いて、食事量が増えない患者様に声掛けをして、栄養状態が改善できるような提案、患者・ご家族様へ入院中・退院後の食事療法について栄養指導や調理方法の指導等の業務も担っています。

### NST (栄養サポートチーム) 活動

当院では、入院時に全患者様の栄養状態を評価し、低栄養の患者様を早期発見するスクリーニングを実施しています。スクリーニングにて抽出された低栄養の患者様を対象に、毎月2回、NSカンファレンスを実施しております。

NSTでは医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、理学療法士、

言語治療士、医療事務の多職種がそれぞれの専門性を活かし、主治医に対して様々な栄養療法を提案し、患者様の栄養状態改善・治療効果の向上・ADL (日常生活動作) やQOL (生活の質) の向上などを目的として活動を行っています。

※NST: Nutrition Support Team (栄養サポートチーム) の頭文字をとった略称です。

### リハビリ栄養の活動

リハビリテーション科と協力して、サルコペニア・低栄養・フレイルの予防、改善を目的としてカロリーやたんぱく質摂取量の調整などリハビリ栄養に取り組んでいます。

※サルコペニアとは筋力や身体機能が低下している状態、フレイルとは加齢に伴った虚弱状態を意味します。

このように、入院中のお食事だけでなく、患者様の疾患や治療に必要な栄養管理を多職種と連携して取り組んでいます。



## リハビリテーション科

### 「リハビリテーション場面の消毒を考える」

先日、リハビリテーション科では、リハビリテーション場面での適切な手指消毒のタイミングについてスタッフで検討・勉強会を行いました。

新型コロナウイルスの流行から個人が消毒剤を携帯するようになり、使用量の確認を行ってきました。着実に使用量は増えている中、今一度適切なタイミングについて、普段の練習場面を思い起こしながらディスカッションしました。「練習器具を使用する前後」や「座席を移動するタイミング」など細かな部分を共有しながら、今後の感染拡大の防止を徹底し、安全で安心してリハビリテーションを提供できる体制作りを頑張っています。



## 編集後記

皆様は「おうち時間」をどのようにお過ごしでしょうか？私はこの期間中に、裁縫や刺繍、雑貨作り等の手芸を始めました。自分で制作したからこそ実感できる喜びと、同時に、当たり前のように身につけているもの、視界に入るもの全てが誰かの作品であるということに気が付き、毎日が刺激で溢れるようになりました。コロナ禍での生活が長期化していますが、引き続き感染対策を徹底すると共に、皆様の日常が豊かであることを願っています。

医事課 若生